



信頼 創造 奉仕

大型指示計

RE01-21

RE01-31

RE01-41

RE01-51

RE01-61



RE01-81

取扱説明書

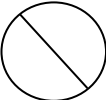




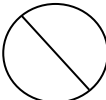
安全に正しくお使いいただくために

〈安全に正しくお使いいただくために〉

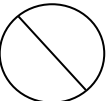
この説明書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が障害を負う可能性が想定される、および物的損害のみの発生が想定されることを表しています。

警告

	濡れ手禁止 濡れた手で操作、点検、接続をしないでください。感電の恐れがあります。
	電源遮断 配線作業時および、ヒューズ交換時には、必ず電源を切った状態で行ってください。感電することがあります。
	電源遮断 万一異臭や異常な発熱をしたり、煙が出たときは、ただちに電源を切ってください。そのまま使用すると火災の恐れがあります。当社の支店・営業所に修理をご依頼ください。
	定格厳守 ヒューズは指定の定格のものを使用してください。指定外の定格のヒューズを使用したり、ヒューズホルダを短絡しないでください。火災、爆発、感電の恐れがあります。
	定格厳守 指定の定格電源電圧、容量を守ってください。守らないと機器を破損したり火災の恐れがあります。
	使用場所制限 可燃性、引火性、爆発性ガスまたは蒸気、水のある場所で使用しないでください。火災、爆発、感電の恐れがあります。

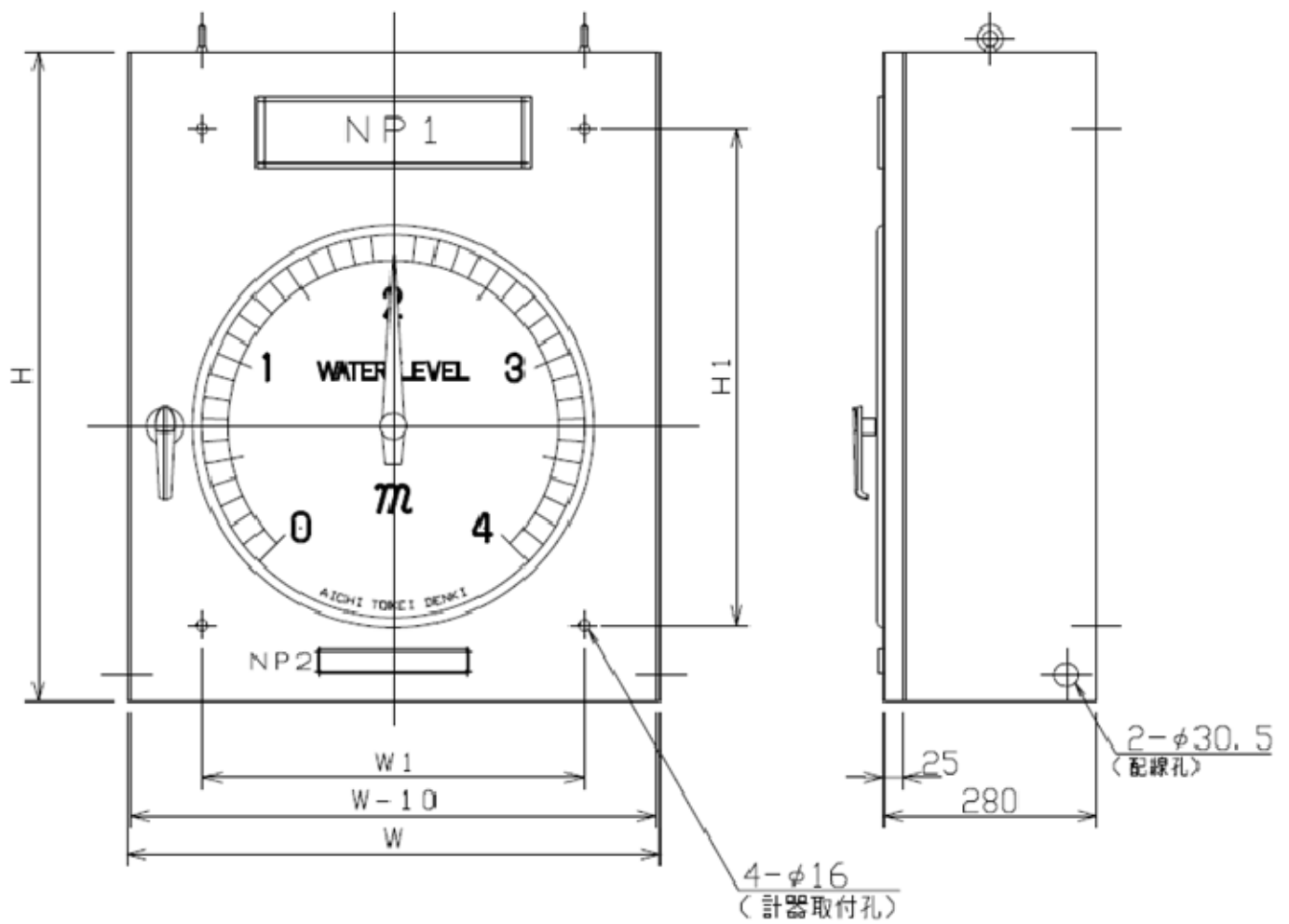
注意

	落下禁止 製品を落下させたり、強い衝撃を与えないでください。ケガをしたり、製品が壊れる恐れがあります。
---	---

目 次

目 次	1
1 概要	2
2 仕様	2
3 付属品	2
4 外形図	3
5 接続図	4
6 各部の名称	5
7 運転	5
8 保守点検	6
9 ユニット構成	7
10 保守基準	7

4 外形図

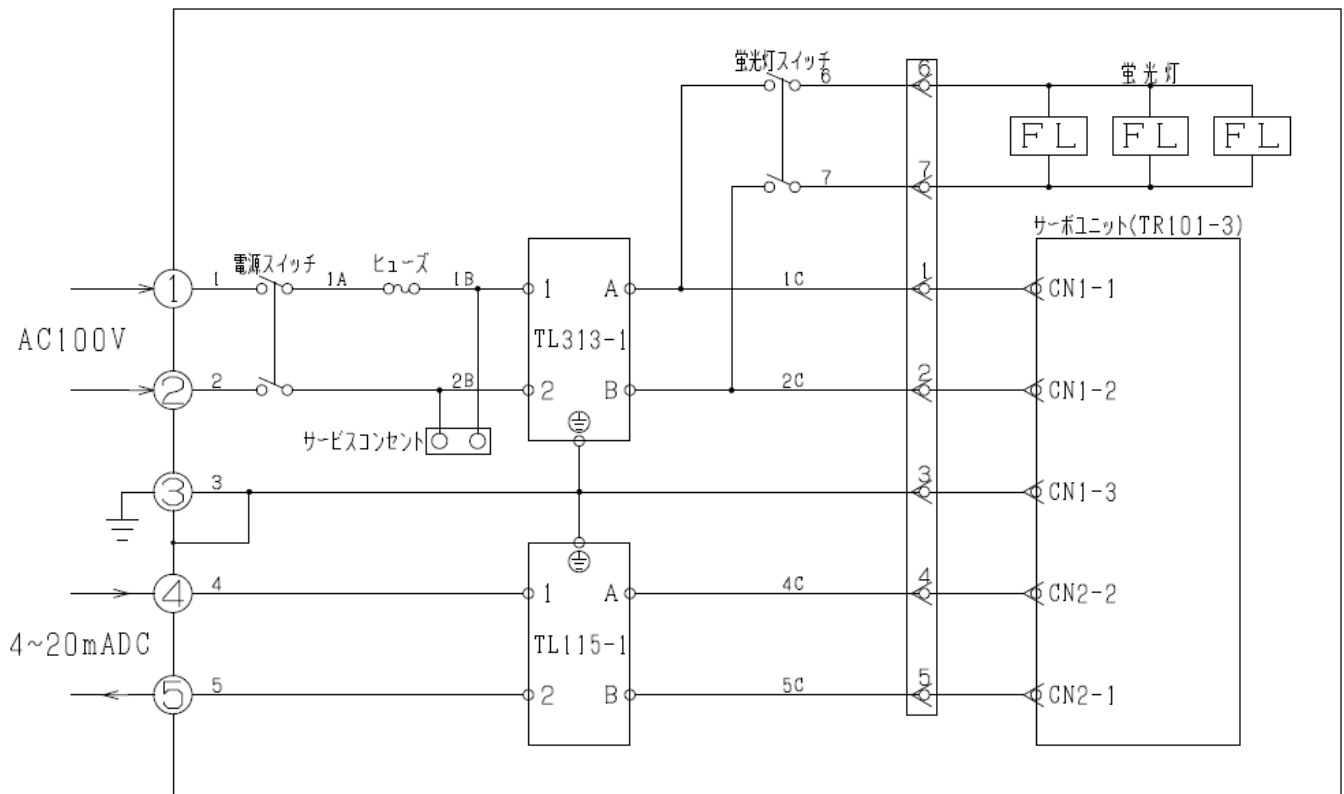


- 目盛は一例を示す
- NP 1 : 名称銘板
- NP 2 : 社名板 (愛知時計電機株式会社)

寸法一覧表

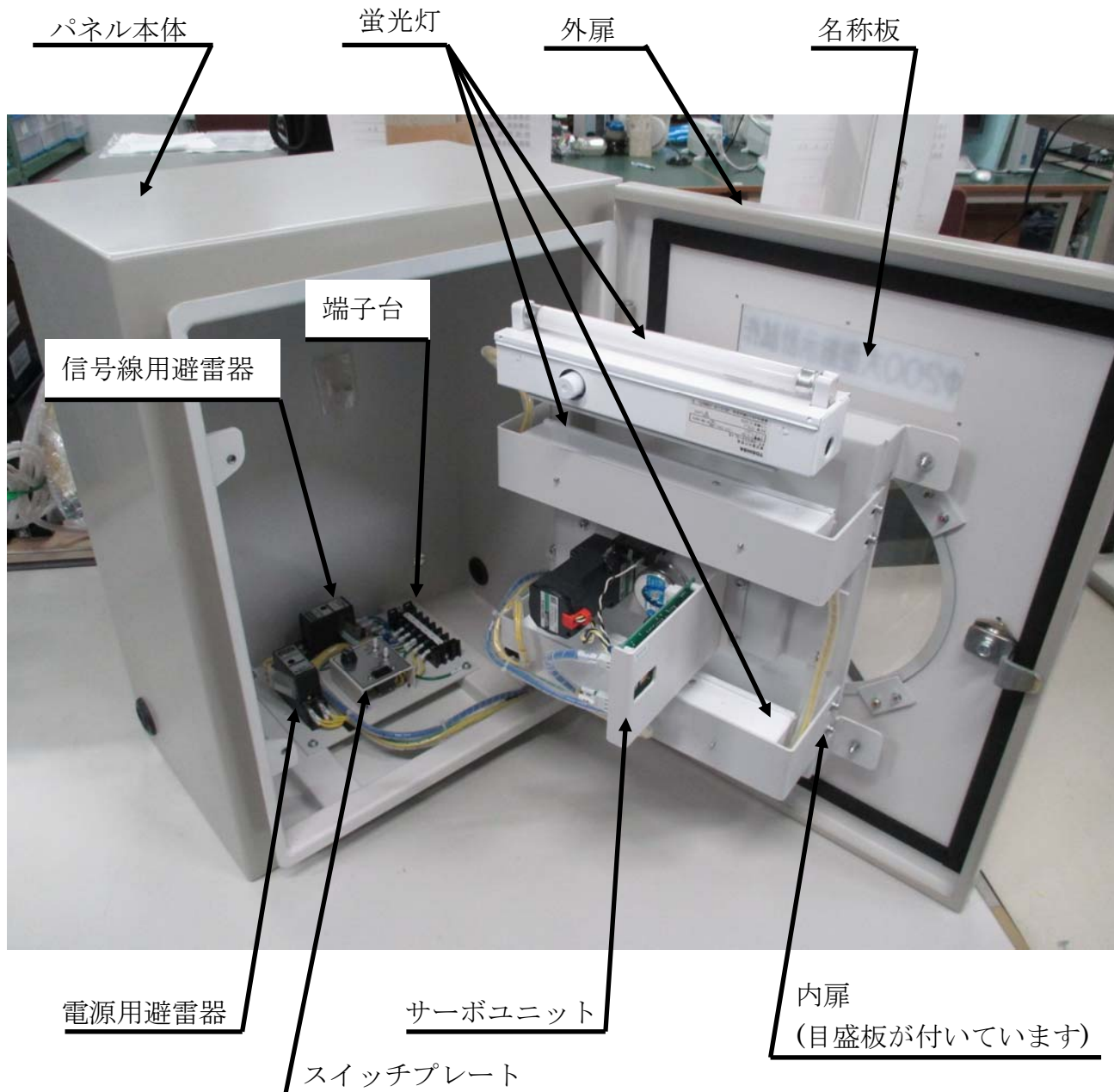
型 式	H	W	H1	W1
RE01-21	520	400	400	280
RE01-31	620	500	500	380
RE01-41	720	600	600	480
RE01-51	850	700	650	500
RE01-61	950	800	750	600
RE01-81	1150	1000	950	800

5 接続図



- TR101-3 : サーボユニット
- TL313-1 : 電源用避雷器
- TL115-1 : 信号線用避雷器

6 各部の名称



注意) 上の写真は参考図です。大きさ・タイプによって、蛍光灯の配置場所が異なります。

7 運転

大型指示計の外扉と中扉を開けて、電源線と信号線を端子台に接続します。

スイッチプレートの上にある電源スイッチと蛍光灯スイッチをONにして下さい。

ONにすると、蛍光灯が点灯し、指針が動き始めます。

以上で運転が開始されます。

8 保守点検

指針目盛の誤差が±1%以上生じ較正を必要とする場合は、次の2通りの方法で信号を入れて確認できます。

(1) 電流発生器を使って端子台から信号を入れる。

① 大型指示計の底部にある端子台4番と5番に接続されている外部からの信号線を外します。このとき信号線は、大型指示計と外部とが切り離されますので注意してください。(信号線が切り離されるため、他の計器が接続されていたとき、その計器は零方向へ動くか、もしくは動作しなくなってしまうかもしれません)

② 4番端子に電流発生器の+側を、5番端子に-側を接続します。

次に、出力を4mAにして指針が最小値を指示するように、サーボユニットの基板にある零調整トリマを回して下さい。また、出力を20mAにして指針が最大値を指示するようにスパン調整トリマを回して下さい。これを2～3回くり返し、0と最大値が合うようにして下さい。

(2) 電流発生器から直接サーボユニットに信号を入れる。

① サーボユニットに接続されている図1の○部分のコネクタを外し、付属されている図3のコネクタ付きケーブルを接続します。(信号線が切り離されるため、他の計器が接続されていたとき、その計器は零方向へ動くか、もしくは動作しなくなってしまうかもしれません)

② 赤色チューブの端子を電流発生器の+側へ、青色チューブの端子を電流発生器の-側へ接続します。

次に、出力を4mAにして指針が最小値を指示するように、サーボユニットの基板にある零調整トリマを回して下さい。また、出力を20mAにして指針が最大値を指示するようにスパン調整トリマを回して下さい。これを2～3回くり返し、0と最大値が合うようにして下さい。

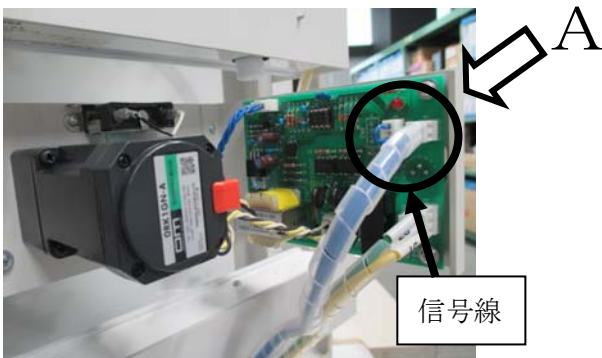


図1. サーボユニット (信号線)



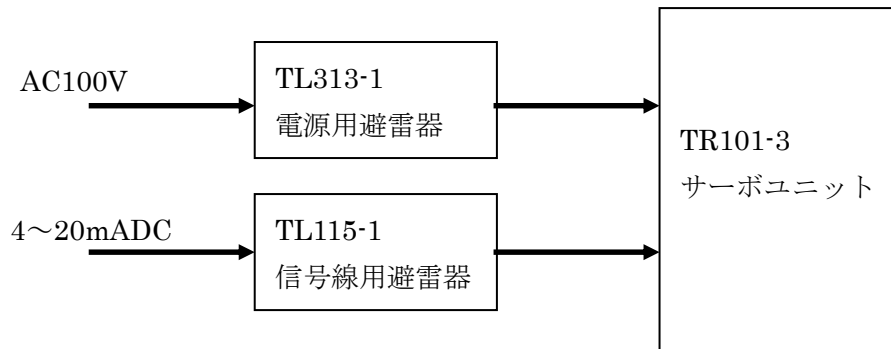
図2. 図1を矢印A側から見た図
(左: 零調整トリマ、右: スパン調整トリマ)



図3. 付属されているコネクタ付きケーブル

9 ユニット構成

大型指示計（RE01-□□）は、下図のようにTL313-1、TL115-1、TR101-3で構成されています。



10 保守基準

RE01-□□ シリーズ												○・・・点検、調整
												◎・・・部品交換
分類	メンテナンス内容	場所・部品・その他	日常	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
TR101-3	基本点検	動作チェック 基準入力電流と指示値の関係				○			○			◎
TL115-1	接地抵抗測定	100Ω以下				○			○			○
	導通試験	内部抵抗 (33Ω)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保守交換	避雷器全体				◎			◎			◎
TL313-1	接地抵抗測定	100Ω以下				○			○			○
	保守交換	避雷器全体				◎			◎			◎
目盛板	明るさ	蛍光灯	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○